

徒然草「猫またといふものありて」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

「奥山に猫またといふものありて」を読んで、問いに答えなさい。

「奥山に猫またといふものありて、人を食らふなる。」と人の言ひけるに、「山ならねども、これらにも、猫の①経上がりて、猫またになりて、人取ることあるものを。」と言ふ者ありけるを、何阿弥陀仏とかや、②連歌しける法師の、③行願寺の④辺にありけるが聞きて、ひとりありかん身は、心すべきことにこそと思ひける頃しも、ある所にて夜⑤更くるまで連歌して、ただひとり帰りけるに、小川の⑥端にて、音に聞きし猫また、あやまたず足もとへふと寄り来て、やがてかきつくまに、⑦頸のほどを食はんとす。胆心もうせて、防がんとするに、力もなく、足も立たず、小川へ転び入りて、「助けよや、猫またよやよや。」と叫べば、家々より松どもともして走り寄りて見れば、このわたりに身知れる僧なり。「こはいかに。」とて、川の中より抱きおこしたれば、連歌の賭け物取りて、扇、小箱など⑧懐に持ちたりけるも、水に入りぬ。⑨稀有にして助かりたるさまにて、はふはふ家に入りけり。飼ひける犬の、暗けれど主を知りて、飛びつきたりけるとぞ。

問1 下線①～⑨の読みを送り仮名も含めてひらがなで答えなさい。ただし、歴史的仮名遣いが使われている場合は、現代仮名遣いに直すこと。

- |   |   |
|---|---|
| ① | ② |
| ③ | ④ |
| ⑤ | ⑥ |
| ⑦ | ⑧ |
| ⑨ |   |

問2 「連歌しける法師の、行願寺の辺にありけるが聞きて」を現代語に訳して書きなさい。

問3 「ひとり歩かん身は、心すべきことにこそと思ひける」を現代語に訳して書きなさい。



問4 「音に聞きし猫また」を現代語に訳して書きなさい。

問5 「あやまたず」の意味としてもっとも正しいものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：あやまって
- イ：待つことなく
- ウ：狙い違わず
- エ：あやまることなく

問6 「やがて」の意味を答えなさい。

問7 「胆心も失せて」の意味としてもっとも正しいものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：正気を失って
- イ：命からがら
- ウ：抵抗する気力もなく
- エ：大怪我をして

問8 「松」とは何のことか答えなさい。

問9 「ひとり歩かん身は、心すべきことにこそと思ひける」と法師が思った理由としてもっとも正しいものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：奥山に猫またが出て人を食べてしまうから
- イ：連歌の賞品を持って歩くことがあるから
- ウ：夜遅く歩くことがあるから
- エ：このあたりにも猫またが出るから

問10 法師を襲った猫またの正体を、古文から5字で抜き出して答えなさい。



問11 猫またに襲われた法師の様子として、正くないものを次の中から選び○でかこみなさい。

ア：たいまつを持っている人を見かけて、助けを呼んだ

イ：あまりの恐ろしさに腰を抜かしてしまった

ウ：連歌の賞品を水にぬらしてしまった

エ：大声で助けを呼んだ

問12 「飼ひける犬の、暗けれど主を知りて、飛びつきたりける」を具体的に書いている部分を古文から探し、句読点も含めて抜き出して答えなさい。

問13 この文章のテーマとして最もふさわしいものを次の中から選び○でかこみなさい。

ア：恐ろしい妖怪に怯える人々の暮らし

イ：欲深い法師の災難

ウ：うわさに惑わされる人間のこっけいさ

エ：注意を聞かないことの愚かさ



## 徒然草「猫またといふものありて」定期テスト対策練習問題（解答）

- 問1 ① へあがりて ② れんが  
③ ぎょうがんじ ④ ほとり  
⑤ ふくる ⑥ はた  
⑦ くび ⑧ ふところ  
⑨ けう

問2 (例) 連歌を生業としている、行願寺の近くに住んでいた法師が聞いて  
【解説】「辺（あたり）」「近く・付近」。「あり」は「いる・存在する」という意味。

問3 (例) ひとりで歩く身としては、気をつけなくてはならないと思っていた

問4 (例) うわさに聞いていた猫また  
【解説】「音」は「うわさ・評判」という意味を持つ。

問5 ウ

問6 すぐに  
【解説】現代の「やがて」は少し時間がたってから、というイメージがあるが、古語の「やがて」には、「すぐさま・ただちに」という意味があるので注意しよう。

問7 ア  
【解説】「肝心」とは、肝と心で「精神」とか「正気」という意味を持つ。

問8 たいまつ  
【解説】松のやにの多い部分を束ねて燃やして照明器具にしていたので、松で「たいまつ」のことになる。※現在は「松明」でたいまつと読む。



## 問9 エ

【解説】もともとは「奥山に猫またがいる」という話だったが、「山ならねども、これらにも、猫の経上がりて、猫またになりて…（山でなくても、このあたりにも猫が年月を経て変化して猫またになる）」と聞いたから用心しているのである。

## 問10 飼ひける犬

## 問11 ア

【解説】

法師が大声で助けを呼んだため、近くの家から人がたいまつを持って駆けつけてくれたのであって、たいまつを持っている人を見かけたわけではないので、アが誤り。

## 問12 あやまず、足もとへふと寄り来て、やがてかきつくまに、頸のほどを食はんとす。

## 問13 ア

【解説】「夫が」とあるので、夫が〇〇したと考えてしまいそうだが、これは「夫の」という意味となる。つまり、夫の状（夫の言うこと）と少しも違わないという意味となる。妻が言っていることが、夫の言うこと少しも変わらないということとなる。

## 問14 ウ

【解説】「いみじき」は「並々でない・すばらしい」という意味を持つ。

（参考：ひどい・恐ろしいという意味も持っている）「成敗」には、「裁定・決裁」という意味があり、ここでは軟挺を落とした主と、夫の問題に対して「すばらしい判断」をしたという意味となる。

## 問15 ウ

【解説】この話は、猫またのうわさを信じた法師が、うわさに惑わされてしまった結果、ただの飼い犬を猫まただと思って大騒ぎするこっけいさをテーマにしている。

